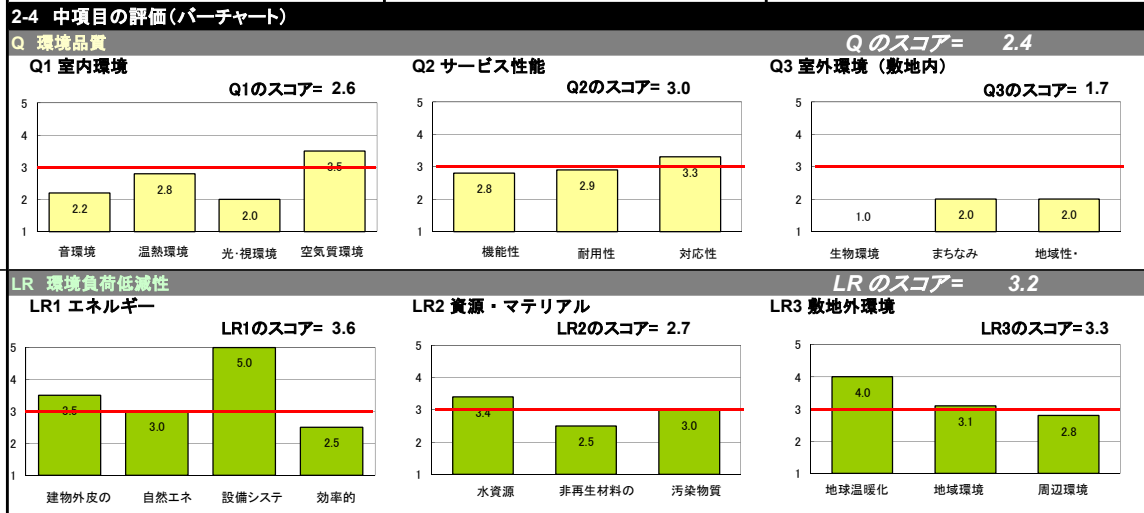
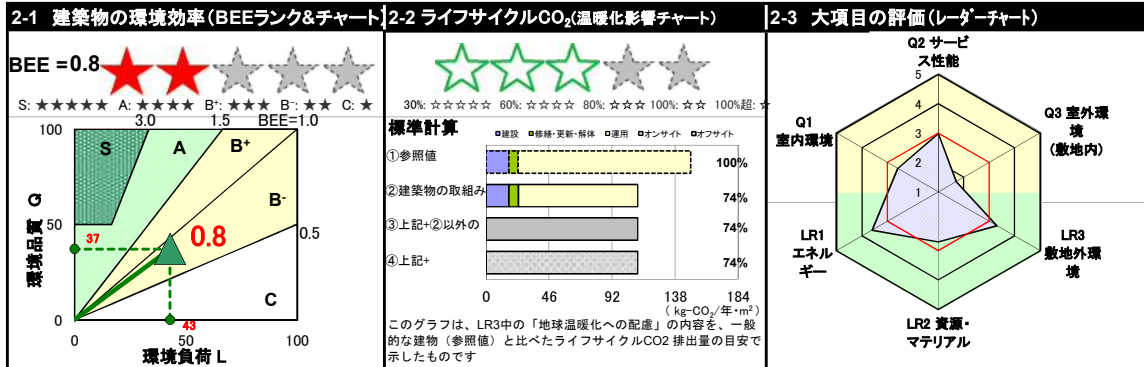


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)DCMカーマ安城住吉店新築	階数	地上1F
建設地	愛知県安城市住吉町3丁目3番 外	構造	S造
用途地域	工業地域、防火指定なし	平均居住人員	40 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,640 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2016年10月31日
敷地面積	11,435 m <sup>2</sup>	作成者	鈴木誠司
建築面積	5,867 m <sup>2</sup>	確認日	2016年10月31日
延床面積	5,856 m <sup>2</sup>	確認者	鈴木誠司



3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt; なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt; なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$  × 100

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$  × 100

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数				
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.4</b>	
<b>Q1 室内環境</b>					0.40		-	<b>2.6</b>	
<b>1 音環境</b>				<b>2.2</b>	0.15		-	<b>2.2</b>	
1.1 騒音				2.0	0.40		-		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40		-		
1 開口部遮音性能				3.0	1.00		-		
2 界壁遮音性能				-	-		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-		-		
1.3 吸音				<b>1.0</b>	0.20		-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.8</b>	0.35		-	<b>2.8</b>	
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50		-		
1 室温				3.0	0.50		-		
2 外皮性能				3.0	0.17		-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.33		-		
2.2 湿度制御				<b>2.0</b>	0.20		-		
2.3 空調方式				<b>3.0</b>	0.30		-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>2.0</b>	0.25		-	<b>2.0</b>	
3.1 昼光利用				<b>3.0</b>	0.50		-		
1 昼光率				-	-		-		
2 方位別開口				-	-		-		
3 昼光利用設備				3.0	1.00		-		
3.2 グレア対策				-	-		-		
1 昼光制御				-	-		-		
3.3 照度				-	-		-		
3.4 照明制御				<b>1.0</b>	0.50		-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.5</b>	0.25		-	<b>3.5</b>	
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50		-		
1 化学汚染物質			使用材料は施主支給品以外はJIS・JAS規格F☆☆☆☆使用	4.0	1.00		-		
4.2 換気				<b>3.0</b>	0.30		-		
1 換気量				3.0	0.50		-		
2 自然換気性能				-	-		-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50		-		
4.3 運用管理				<b>3.0</b>	0.20		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				1.0	0.50		-		
2 喫煙の制御			店舗内禁煙	5.0	0.50		-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30		-	<b>3.0</b>	
<b>1 機能性</b>				<b>2.8</b>	0.40		-	<b>2.8</b>	
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40		-		
1 広さ・収納性				-	-		-		
2 高度情報通信設備対応				-	-		-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				<b>2.3</b>	0.30		-		
1 広さ感・景観			3.6m以上の天井高さ1F=4.0m。	4.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース				2.0	0.33		-		
3 内装計画				1.0	0.33		-		
1.3 維持管理				<b>3.0</b>	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>2.9</b>	0.31		-	<b>2.9</b>	
2.1 耐震・免震				<b>3.0</b>	0.48		-		
1 耐震性				3.0	0.80		-		
2 免震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.0</b>	0.33		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23		-		
2.4 信頼性				<b>2.6</b>	0.19		-		
1 空調・換気設備				1.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20		-		
<b>3 対応性・更新性</b>				<b>3.3</b>	0.29		-	<b>3.3</b>	
3.1 空間のゆとり				<b>4.2</b>	0.31		-		
1 階高のゆとり				5.0	0.60		-		
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40		-		
3.2 荷重のゆとり				<b>3.0</b>	0.31		-		
3.3 設備の更新性				<b>3.0</b>	0.38		-		
1 空調配管の更新性				3.0	0.17		-		
2 給排水管の更新性				3.0	0.17		-		
3 電気配線の更新性				3.0	0.11		-		
4 通信配線の更新性				3.0	0.11		-		
5 設備機器の更新性				3.0	0.22		-		
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22		-		

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数					
						<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				
1 生物環境の保全と創出	独自③	1.0	0.30	-	-	-	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	2.0	0.40	-	-	-	-	-	-	2.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④	2.0	0.30	-	-	-	-	-	-	2.0
3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	-	-	-	-	2.0
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										
<b>LR1 エネルギー</b>										
BPI=0.93										
1 建物外皮の熱負荷抑制		3.5	0.30	-	-	-	-	-	-	3.5
2 自然エネルギー利用		3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>										
BPI 0.93。LED照明の採用。										
集合住宅以外の評価(3a.3b)		5.0	1.00	-	-	-	-	-	-	5.0
集合住宅の評価(3c)		-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>4 効率的運用</b>										
集合住宅以外の評価		2.5	0.20	-	-	-	-	-	-	2.5
4.1 モニタリング		2.5	1.00	-	-	-	-	-	-	2.5
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	3.0
集合住宅の評価		2.0	0.50	-	-	-	-	-	-	2.0
4.1 モニタリング		-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>										
BPI=0.93										
<b>1 水資源保護</b>										
節水コマと擬音装置・節水便器の採用。										
1.1 節水		3.4	0.15	-	-	-	-	-	-	3.4
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		4.0	0.40	-	-	-	-	-	-	4.0
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.60	-	-	-	-	-	-	3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	-	-	-	-	3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	3.0
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>										
2.1 材料使用量の削減		2.5	0.63	-	-	-	-	-	-	2.5
2.2 既存建築躯体等の継続使用		2.0	0.07	-	-	-	-	-	-	2.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用	② 独自	3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.21	-	-	-	-	-	-	3.0
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.21	-	-	-	-	-	-	1.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	3.0
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>										
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.22	-	-	-	-	-	-	3.0
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.32	-	-	-	-	-	-	3.0
1 消火剤		3.0	0.68	-	-	-	-	-	-	3.0
2 発泡剤(断熱材等)		-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	3.0
3.0		3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	3.0
<b>LR3 敷地外環境</b>										
ライフサイクルCO2概算値:74%										
1 地球温暖化への配慮	①	4.0	0.33	-	-	-	-	-	-	4.0
<b>2 地域環境への配慮</b>										
燃焼機器を使用しておらず、大気汚染物質を全く発生しない。										
2.1 大気汚染防止		3.1	0.33	-	-	-	-	-	-	3.1
2.2 温熱環境悪化の改善		5.0	0.25	-	-	-	-	-	-	5.0
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	-	-	-	-	2.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	-	-	-	-	3.5
1 雨水排水負荷低減	独自	3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	3.0
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	3.0
3 交通負荷抑制	独自	5.0	0.25	-	-	-	-	-	-	5.0
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	3.0
<b>3 周辺環境への配慮</b>										
乗入れを側道にも設置、駐車場台数157台。荷捌場を別道路に計										
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		2.8	0.33	-	-	-	-	-	-	2.8
1 騒音	独自	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	3.0
2 振動	独自	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	3.0
3 悪臭		3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	3.0
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	3.0
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-	-	-	-	3.0
2 砂塵の抑制		-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	3.0
3.3 光害の抑制		2.3	0.20	-	-	-	-	-	-	2.3
1 屋外照明及び屋内照明のつららに漏れる光への対策		2.0	0.70	-	-	-	-	-	-	2.0
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	3.0

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

(仮称)DCMカーマ安城住吉店新築工事

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.0</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.7</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)DCMカーマ安城住

計画上の配慮事項	
総合	商業施設である用途であるため、経済性に配慮しつつCO2排出量を抑えた施設となるようにしました。
Q1 室内環境	建築材料は☆☆☆☆を採用。
Q2 サービス性能	1.2 売場の天井高さ3.6m以上の1F=4.5m。 3.1 階高のゆとりが3.9m以上の1F=6.0m。
Q3 室外環境(敷地内)	ピロティ(外売場)を設けて日陰の形成。
LR1 エネルギー	3 LED照明を採用。
LR2 資源・マテリアル	節水型器具(擬音装置、自動センサー小便器)の採用。
LR3 敷地外環境	2.1 燃焼機器は使用しておらず、外部空間に対して大気汚染物質を全く発生しない。 2.3 乗り入れを交通量の少ない道にも設置し渋滞緩和に寄与、駐車場台数157台。トラック荷捌き場の計画。
その他	